

東日本大震災 陸上自衛隊初となる即応予備自衛官災害派遣へ



出発報告をうける古河混成団長



大津駐屯地での編成完結式

平成二十三年三月十一日(金)午後二時四十六分、三陸沖を震源とするマグニチュード九.〇の大地震が発生した。これに伴い中部方面混成団(団長 古河克樹一佐)隷下である第四十七普通科連隊(連隊長 谷川拓美一佐)に対し、陸上自衛隊初となる即応予備自衛官約一七〇名の災害等招集が発令された。

これを受け、連隊は三月二十四日大津駐屯地において、編成完結式及び古河混成団長への出発報告を実施し、朝霞駐屯地経由で、二十七日には配属先の第十四旅団指揮所がある宮城県の女川総合運動公園に到着した。

二十八日から災害派遣活動に入り、各支援中隊は、それぞれの担任地域において、常備自衛官と即応予備自衛官が一丸となり、道路啓開、物資輸送、重要書類搬出、入浴支援、給水支援、救護支援、給食支援等の多様な任務を六日間にわたり完遂した。最終日には、大勢の住民に見送られ、帰隊を惜しまれつつ現地を後にした。

大きな注目と期待を受けた即応予備自衛官による災害派遣活動は、四月三日に大津駐屯地において古河混成団長に終了報告を実施し、隊員達はそれぞれの帰路について。



編集・発刊

中部方面混成団
本部広報室

TEL077-523-0034



移動間松本駐屯地で一息



大津駐屯地隊員が見送り



大津駐屯地で編成完結



宮城広瀬体育館での宿営



道中激しい雪に見舞われる



朝霞駐屯地での燃料給油



大津駐屯地で記念撮影



大津駐屯地隊員が出迎え



女川町民の手厚い見送り

即応予備自衛官災害派遣活動の軌跡



大津でのインタビュー受け



宮城県石巻市女川町へ到着



配属に関する準備完了報告



状況説明



在宅被災者を個別訪問



入浴支援



保険医療センターの復旧



女川第2小学校体育館での物資輸送支援



作戦会議



にっこりサンパークでの物資輸送



重機による道路啓開



石巻総合運動公園での物資輸送支援



女川町役場での重要書類搬出



北上地区の民家復旧



入浴輸送支援



女川総合運動公園での救護支援



民家の土砂除去



重要書類搬出

派遣隊員家族投稿



47普連 3中隊 即応予備自衛官 渡邊2尉 小百合夫人

二週間という短い期間でしたが、被災地で活動している主人の姿を思い浮かべ、自衛官の仕事の厳しさをつくづく感じるとともに、留守を預かる自衛官の妻としての大変さを実感しました。
この震災で、子供も私もいろんな事を考えさせられました。家族みんなでの幸せ、命の大切さ、父親の仕事の大変さなど子供に話せるいい機会にもなりました。
今でも被災地で、作業をしておられる自衛官のみなさん頑張ってください。そして一日も早い被災地の復興を願っています。



47普連 本管中隊 太田1曹 和子夫人

夫が即応予備自衛官として被災地に赴き約二週間の間、不在になりました。余震が頻繁に発生しており、決して安全な場所に行くわけではないので不安は正直ありましたが、部隊からの定期的な連絡や活動後のフォローがあり随分と不安やストレスが軽減されました。
今後も家族で主人の仕事、即応予備自衛官での訓練をサポートしていきたいと思えますので、主人を宜しくお願います。

今回の大震災で、即応予備自衛官が東北地方に派遣されることになり、夫は私に『行くよ』と即答しました。夫はいつも大事な事は相談なく決めてしまい、いつも決めた後私に報告します。
初めての災害派遣、二週間の長期に渡る任務、余震や津波の心配等私は不安で胸が一杯でした。家を出る時、せめて笑顔で送り出そうと、母と二人で見送りました。被災地では、被災者の皆様の力になり勇気づけてあげてほしいと強く願いました。
出発後、無事に現地に着いたとメールがあった時はホッとしてしました。活動間、



47普連 2中隊 即応予備自衛官 松岡3曹 久美子夫人

平成七年三月十八日。私と自衛隊員である夫の結婚記念日です。この年の一月十七日早朝、阪神淡路大震災が発生しました。結婚式まで二ヶ月とせまったこの日の午前九時頃、私の勤務先に夫から電話がありました。「神戸方面に出勤するのではばらくは連絡がつかないと思う。」という内容でした。当時はまだ携帯電話もなく、不安でした。あれから十六年目の三月十一日に東日本大震災が起こりました。十六年前の地震は衝撃でしたが、今回はそれをさらに上回る信じられない光景がテレビに映し出されました。夫は今回、宮城県女川町に出勤しまし



47普連 本管中隊 荒瀬1尉 朋美夫人

最後に、被災地の復興と、過酷な勤務環境の中で派遣活動に従事されている皆様の無事を心よりお祈りしております。
被災された方々の為に少しでも役に立てたかと思うと私もうれしいです。今後復興するまで数年、数十年という時間が掛かると思いますが、日本の為、被災地の為に頑張つてほしいと思います。そして妻である私に出来ることは、日々頑張っている夫を支える事だと思つていきます。

何度か余震があり心配しましたが、部隊の方から、現地の状況や無事に任務にあたっていると連絡を受け安心しました。普段は印刷の仕事、年間三十日は自衛官。二足の草鞋を履き、いざという時に自衛官として災害派遣にいった夫を誇りに思いました。任務を終え、事故・ケガ等なく無事に帰ってきたことが一番のおみやげだと思います。これから先、想像のつかないことが起こるかもしれません。その為にも、日頃の訓練に励みいつでも対応できるように何事も頑張ってください。
夫は訓練ではどんな事をしているのか判りませんが、いつまでも健康で長く続けられように私からエールです。「フアイト!」「がんばれ東日本!」

地震が起きてから数日後、ニュースでもいつも夫から良く聞く言葉が流れてきました。「即応予備自衛官」です。即応予備自衛官の派遣が決定した事が、繰り返して報道される中、夫の派遣も決まりました。心配と不安が押し寄せてきたと同時に、夫婦でいつも話している事を思い出しました。
夫はいつも「もしも家が被災したら、わしは家にはおらん。その代わり他の誰かが面倒見てくれる。」と言っていました。
心配でしたが、夫が被災地の人にとつての「他の誰か」になる為なんだと自分に言い聞かせ、精一杯の言葉を掛けて見送りました。無事帰ってきた今、心からの慰労の気持ちと、自分の中に自衛官の妻としての覚悟が出来た事を感じています。



47普連 1中隊 上里3曹 昌恵夫人

第四十七普通科連隊

◆平成二十三年度

即応予備自衛官招集訓練開始



連隊長訓示 (第1中隊 善通寺)

第四十七普通科連隊(連隊長 谷川拓実(佐))は、四月十四日から十六日の間、各出頭駐屯地において平成二十三年度訓練開始式を実施した。本訓練開始式には、善通寺駐屯地司令並びに、四国・中国地区九個地方協力本部長の御臨席を賜った。連隊長は、訓示において「今年度の練成訓練を開始するに当たり、改めて、練り返し、何度でも、連隊長統率事項である「精強第四十七連隊の練成」について述べます。常備自衛官の諸官にあつては「我々は招集訓練を担当する教育部隊で自衛官と共に戦う練成部隊である。」ということ、また、即応予備自衛官の諸官にあつては「一朝有事の際には、作戦部隊である第四十七普通科連隊の各中隊の一員として、それぞれの職務で行動しなければならぬ。」ということ、健康を肝に銘じて下さい。そのためには、健



康管理も含めた常日頃の取り組みが必要不可欠であり、各々が高い理想と誇りを持ってこれからの練成訓練に臨むよう要望します。「精強第四十七普通科連隊の練成」、我が連隊とそれぞれの職務に誇りを持ち、精強な第四十七普通科連隊を練成するという意識を求めていることを重ねて徹底します。」と強調された。



47連隊歌斉唱 (第2中隊 松山)



武器授与式 (第3中隊 米子)



識別帽授与 (本部管理中隊 日本原)

第四陸曹教育隊

◆平成二十三年度

各種課程教育

第四陸曹教育隊(隊長 鈴木精治(一佐))では、平成二十三年四月四日、第一九(一次)陸曹候補生課程(四十八名)を皮切りに第一一八期初級陸曹特技課程(一一八名)、第四十五期陸曹基礎英語課程(八名)等、平成二十三年度各種課程教育が開始された。隊は、五月九日から五月十三日までの間、第一次野営訓練(前段)を長池演習場及びあいは野演習場で実施した。共通教育中隊は、当初長池演習場での



防衛命令下達 (共通教育中隊)



分隊長としての指揮手順を演練し、じ後あいは野演習場で潜入体験を実施、実弾下での実戦的戦闘行動を実施した。普通科中隊は、あいは野演習場において〇一式軽対戦車誘導弾、一一〇mm対戦車弾及び各個戦闘射撃訓練を実施、各種射撃における射撃練度向上及び射撃勤務要領を修得した。

五月二十二日、普通科教育中隊第一一八期初級陸曹特技課程の学生は、第一〇九教育大隊の一般陸曹候補生課程学生に対し、各種武器の取扱い等の指導法を実施、練度向上を図ることが出来た。五月二十五日、第四十五期陸曹基礎英語課程は、部外講師を招き、英会話実習「日本の文化」を実施した。



新入隊員への指導法 (普通科教育中隊)

第一〇九教育大隊

◆多賀城の新入隊員を教育担任

第一〇九教育大隊（大隊長 西野強二佐）は、四月初めから六月末までの間、大津駐屯地において、第四期一般陸曹候補生課程（前期）及び自衛官候補生課程を担当実施した。

大隊は、当初中管内で採用された一般陸曹候補生三二二名と自衛官候補生一八名を担当予定であったが、一般の東日本大震災の影響で多賀城駐屯地第一九教育大隊で教育予定だった一般陸曹候補生の内、青森・宮城・福島出身者一七四名を急速担任することとなり、既に予定していた三十三名の教官・助教の他に新たに中管内各部隊から十七名、多賀城駐屯地からの四名の助教の支援を得るとともに、第四陸曹教育隊には上級陸曹教育中隊の基幹隊員と施設その他装備品等の支援を得て臨時教育隊として第八共通教育中隊を編成し、教育を担当した。新入隊員は、中隊長の精神教育や防衛



湖岸沿いでの2.5km行進訓練



戦闘訓練練度判定



ガス体験訓練

法制・服務等の知識教育及び基本教練、歩哨、武器、射撃、戦闘、格闘等の実技訓練並びに日々の体育を通じ、陸上自衛隊としての資質、技能、体力等の基礎固めに邁進、自衛官らしい举措・態度も板に付き、六月三十日に教育を修了し、各職種部隊の後期教育へと羽ばたいていく。

第一一〇教育大隊

◆第四期

一般陸曹候補生課程前期

第一一〇教育大隊（大隊長 品川善邦二佐）は、三月三十一日～六月二十九日の間、善通寺駐屯地において、第四期一般陸曹候補生課程（前期）を担当実施した。

三九二名の新入隊員たちは教育間、大隊長の要望事項「仕事は、楽しく、厳しく、生き生きと」「誇りと自信をもって一歩前へ」を忠実に実施し、各種教育訓練に汗を流した。

新入隊員は、六月三十日に善通寺駐屯地を離れて部隊配置となり、後期教育での健闘が期待される。



14旅団災害派遣応援メッセージ



台風2号中での歩哨訓練練度判定



金刀比羅での2.5km行進訓練

中部方面混成団創立四周年・
大津駐屯地創設五十二周年記念行事

中部方面混成団及び大津駐屯地(団長兼駐屯地司令 古河克樹一佐)は、中部方面混成団創立四周年・大津駐屯地創設五十二周年記念行事を整齐と挙行した。今年、東日本大震災発生に伴い、記念行事を縮小しての実施となった。当日は、生憎の雨天だったが、記念式典で団隷下部隊の第四十七普通科連隊、第四陸曹教育隊、第一〇九教育大隊、第一〇教育大隊、駐屯地業務隊及び諸隊の隊員が参列した。



記念式典に団隷下部隊が参列

栄えある

団長・司令感謝状贈呈

中部方面混成団長兼大津駐屯地司令は、平素から我が国の防衛と自衛隊の任務に深いご理解を寄せられ、永年にわたりご功績のあつた七名の方々に對し、創立記念行事に合わせ、感謝状を贈呈した。受賞された方々は、記念会食において各々紹介された。



司令感謝状受賞者

大津自衛隊協力会
理事



吉田 義法 様

滋賀県防衛協会女性部
副部長



小川 美代子 様

団長感謝状受賞者

中部方面混成団友の会
常任理事



河原田 知博 様

第四陸曹教育隊友の会
会員



西村 峯裕 様

第一〇九教育大隊友の会
事務局長



橋本 正明 様

第一〇教育大隊教友会
監査幹事



田邊 明 様

団長感謝状受賞(団体)

広島総合警備保障 様

新 部 隊 長 紹 介

平成二十三年四月十九日付で、第四陸曹教育隊長に鈴木一佐が着任した。

第四陸曹教育隊長
鈴木精治一佐

プロフィール

- 生年月日 昭和三十三年五月六日
- 出身地 静岡県
- 主要勤務歴
第七十二戦車連隊第三科長
石川地方連絡部募集課長
第七偵察隊隊長
富士学校機甲科部教務班長
東部方面総監部先任副監察官
東部方面総監部募集課長



第三師団長
感謝状受賞



中部方面混成団友の会
監事 青山真由美様



五月十五日、千僧駐屯地で開催された第三師団創立五十周年記念行事において、個人として中部方面混成団友の会 監事 青山真由美様が、団体としては、中部方面混成団友の会(会長 田中清司様)が、永年にわたる自衛隊への功績により、師団長から感謝状を贈呈された。

青山様は、団友の会監事であり、平成十五年四月に第二教育団友の会に入会、二十三年五月までの八年間にわたり、団友の会活動に積極的に尽力された。

団友の会は、昭和五十八年四月に第二教育団友の会として設立、平成二十年三月には中部方面混成団友の会に改称、二十八年間にわたり、防衛思想の普及と防衛基盤の育成に尽力された。

高木一佐離任

高木一成一佐は、第四陸曹教育隊長としての二年間の勤務を終え、平成二十三年四月十九日付で中部方面総監部へ栄転された。

